

## 「会員短信 53」

### 「山里の冬」

渡部美香

二十年程前、主人の仕事で広島と島根の県境近くで暮らしました。瀬戸内の穏やかな気候で育ちましたので、雪の中での生活は初めてでした。

寒冷地仕様になっていないアパートでは、暖房を切ると窓の結露が分厚く凍り付きました。ベランダの洗濯機は、洗濯中に排水や排水管が凍って止まってしまいました。慌てて洗濯物を取り出して竿に掛けると、肌着などはあっという間にカチコチに凍り付いて冷凍ロールイカ状態です。町道は歩道の部分に屋根からの雪が積もり歩くのに苦労しました。雪の表面が溶けて冷えると氷になるので、滑って転びそうになります。妊娠中だったので怖かったです。

生活をする中で雪と寒さは大変でしたが、初めて間近で見た神楽には感服しました。金糸銀糸の煌びやかな衣装をまとい、イケメンメイクの青年がクルクルと華麗に舞い踊る姿は、追っかけ団がいるのも納得の美しさでした。各地で神楽大会が、終日終夜、催され、その熱気も素晴らしかったです。

また、冬の寒さも緩みかけたある日、驚きの光景が！なんと、天道虫が、ぽつぽつと部屋の中を飛び始めたのです。そして瞬く間に物凄い数になったかと思うと、白い壁が赤いドット模様になったのです。思わず叫び声を上げてしまいました。窓枠の隙間で冬眠していたのが春になり出てきたのです。

その後も転勤した先々で、地域色豊かな文化に触れることができました。俳句を始めて数年ですが、それらの体験を俳句の芽にしたいと思っています。